

# 朝日新聞

朝日新聞社  
本社定価年額六十元  
外埠郵費共計六十元



## 世界大戦の導火線！

### 不信行爲へ怒り心頭 ヒ總統、對ソ宣戰布告

#### 獨軍一齊に電撃の火蓋



（ベルリン廿二日T.O.）本日午前五時ヒ總統は全獨乙國民に對し宣言を發し獨乙はソ聯に對し宣戰を布告、フィンランドおよびルーマニア兩國は獨乙に起ち參戰せる旨發表した

對ソ宣戰の理由はソ聯がその對獨友好協定を裏切つたといふに、（ベルリン廿二日T.O.）獨乙國民はその對ソ開戰の報を日曜早朝、精確にいへば廿二日午前五時半のヒ總統宣言をゲツベルス宣傳相がラヂオを通じて朗讀した時始めてその事實を知らされたわけである、右宣言は新聞號外で正午少し前に發表されたが、ナチス黨機關紙「フエルクンター」は「モスクワとの清算」と題しソ聯の對獨友好協定を破棄したと述べてた、（寫眞上はヒトラー總統、下はスターリン首相）



（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

## 裏切られたヒ總統

### 對ソ開戰迄の経緯

#### 烈々！全國民に闡明

ヒトラー總統の對ソ宣戰に關する全獨乙國民の関心は三日ラヂオを通じて行はれた、海軍大臣の演説に對し、獨乙國民は對ソ開戰の報を日曜早朝、精確にいへば廿二日午前五時半のヒ總統宣言をゲツベルス宣傳相がラヂオを通じて朗讀した時始めてその事實を知らされたわけである、右宣言は新聞號外で正午少し前に發表されたが、ナチス黨機關紙「フエルクンター」は「モスクワとの清算」と題しソ聯の對獨友好協定を破棄したと述べてた、（寫眞上はヒトラー總統、下はスターリン首相）

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（ロンドン廿二日同盟）獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

## 平和的意圖を無視

### 獨側から不法挑戦

#### モロトフ外相ラヂオ演説



（モロトフ外相ラヂオ演説）モロトフ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（モロトフ外相ラヂオ演説）モロトフ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（モロトフ外相ラヂオ演説）モロトフ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（モロトフ外相ラヂオ演説）モロトフ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（モロトフ外相ラヂオ演説）モロトフ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（モロトフ外相ラヂオ演説）モロトフ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（モロトフ外相ラヂオ演説）モロトフ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（モロトフ外相ラヂオ演説）モロトフ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

## 獨伊は絶対に協力

### チアノ外相決意を通告

#### チアノ外相決意を通告

（チアノ外相決意を通告）チアノ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（チアノ外相決意を通告）チアノ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（チアノ外相決意を通告）チアノ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（チアノ外相決意を通告）チアノ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（チアノ外相決意を通告）チアノ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（チアノ外相決意を通告）チアノ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（チアノ外相決意を通告）チアノ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（チアノ外相決意を通告）チアノ外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

## 慌し外務省

### 松岡外相、獨大使と要談

#### 松岡外相、獨大使と要談

（松岡外相、獨大使と要談）松岡外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（松岡外相、獨大使と要談）松岡外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（松岡外相、獨大使と要談）松岡外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（松岡外相、獨大使と要談）松岡外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（松岡外相、獨大使と要談）松岡外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（松岡外相、獨大使と要談）松岡外相は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

## 對ソ援助の意圖

### 駐英、米大使語る

#### 駐英、米大使語る

（駐英、米大使語る）駐英、米大使は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（駐英、米大使語る）駐英、米大使は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（駐英、米大使語る）駐英、米大使は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

（駐英、米大使語る）駐英、米大使は今日午後五時、ラヂオを通じて演説した、その演説は、獨乙はソ聯に對し宣戰を布告した、今こそ獨乙は

## 忘れ得ぬ宿敵ソ聯

### 羅失地回復の叫び

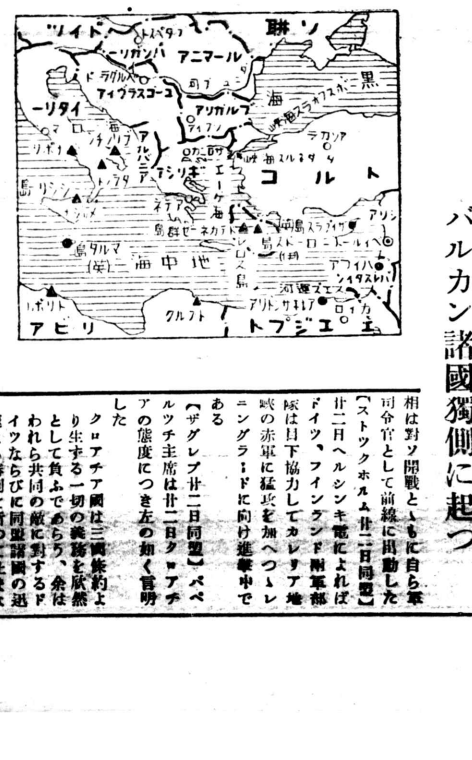
#### バルカン諸國獨側に起つ

（忘れ得ぬ宿敵ソ聯）忘れ得ぬ宿敵ソ聯、羅失地回復の叫び、バルカン諸國獨側に起つ

（忘れ得ぬ宿敵ソ聯）忘れ得ぬ宿敵ソ聯、羅失地回復の叫び、バルカン諸國獨側に起つ

（忘れ得ぬ宿敵ソ聯）忘れ得ぬ宿敵ソ聯、羅失地回復の叫び、バルカン諸國獨側に起つ

（忘れ得ぬ宿敵ソ聯）忘れ得ぬ宿敵ソ聯、羅失地回復の叫び、バルカン諸國獨側に起つ



バルカン諸國獨側に起つ

# 三國同盟は發動せず 帝國政府、暫くは靜觀 米國の出兵を寧ろ問題視

【東京廿三日】消息筋では日米三國同盟の發動は、米國の出兵を寧ろ問題視する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

## 微妙な帝國の立場

【東京廿三日】近衛首相は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

## 米側は至極平靜

【ワシントン廿三日】米國務院は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

## 首腦連、情勢を檢討

【ワシントン廿三日】米國務院は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。



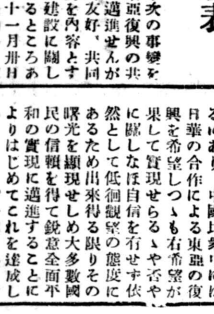
太平洋地域の軍事情勢を示す地図。日本、米國、ソ連の勢力範囲が示されている。

## 厳正中立を堅持 トルコ政府正式に公表

【アンカラ廿三日】トルコ政府は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

## 赤化の流毒を一掃 新東亞建設へ拍車

【東京廿三日】近衛首相は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。



近衛首相の肖像。赤化の流毒を一掃する政策を打ち出す。

## ソ聯對獨攻撃へ モロトフ外相の決意

【モスクワ廿三日】ソ連外務省は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

## 蛇蝎二千四百キロ 獨軍精銳ひた押し

【ベルリン廿三日】ドイツ軍は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

## ソ聯の南方要衝 オデッサを猛襲

【モスクワ廿三日】ソ連軍は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

## ソ聯赤軍公表 第一日の戦況

【モスクワ廿三日】ソ連赤軍は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

## 奈翁の轍は踏まぬ 佛當局筋の観測

【パリ廿三日】フランス政府は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

## ヒ總統は發狂した 皮肉屋シヨウ翁の意見

【ロンドン廿三日】A.P.通信社は、ヒッチコック大統領の行動について、皮肉屋シヨウ翁の意見を掲載した。シヨウ翁は、大統領の行動を「發狂した」と評している。

## ソ側逆侵入 虚々實々の作戦

【モスクワ廿三日】ソ連軍は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

## 國民の防諜 獨軍司令部警告

【ベルリン廿三日】ドイツ軍司令部は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。米國の出兵は、日米三國同盟の發動を求むる目的を達する外ならぬ。

### 好機會

好機會アチアチの地、好機會アチアチの地、好機會アチアチの地。好機會アチアチの地、好機會アチアチの地、好機會アチアチの地。

### 自の魂

自の魂、自の魂、自の魂。自の魂、自の魂、自の魂。

### 果樹苗

果樹苗、果樹苗、果樹苗。果樹苗、果樹苗、果樹苗。

### 温泉

温泉、温泉、温泉。温泉、温泉、温泉。

### 職人及見習急募

職人及見習急募、職人及見習急募。職人及見習急募、職人及見習急募。

### 魚問屋スギキ

魚問屋スギキ、魚問屋スギキ。魚問屋スギキ、魚問屋スギキ。

### 戦陣訓

戦陣訓、戦陣訓、戦陣訓。戦陣訓、戦陣訓、戦陣訓。

### 募集

募集、募集、募集。募集、募集、募集。

### 製菓見習

製菓見習、製菓見習。製菓見習、製菓見習。

### COLONIZAÇÃO ALTA PAULITA

COLONIZAÇÃO ALTA PAULITA, Max Wirth. COLONIZAÇÃO ALTA PAULITA, Max Wirth.

### DA 剤

DA 剤、DA 剤、DA 剤。DA 剤、DA 剤、DA 剤。

### 西谷商會

西谷商會、西谷商會。西谷商會、西谷商會。

日伯親善の一夜!

石射大使、外相夫妻を招待

石射大使は去る十九日、夜間、外相夫妻、...

近來に大きな盛況であった、席上石射大使はオズワルド外相はブラジルが誇る...



石射大使、外相夫妻を招待

球魂白熱、火を噴く地方豫選

ソロ線代表決る

ブルデンテ輝く制覇

全伯少年野球

Table with 4 columns: Team, Wins, Losses, Ties. Includes teams like Brazil, Argentina, etc.

晴れの代表

別報の如くソロ線代表はブルデンテチームが獲得した...

野球 陸上 男子 女子 少年 青年...

陸の精鋭競ふ 汎プ・ブルデンテ 青年陸上競技大会...

聖市運動俱樂部 新しき門出 創立總會終る...

將校の首に一千圓 白晝テロ團の横行 中支戦線「つはもの」便り...

津田正夫氏 新聞記者を招待...

女子青年會生 女子青年會生...

濇い心の結晶! ビネイロス青年の美譽...

生還を期せ 小父さん...

肝油ハリバ...

歯科 萩原...

大坂商船 發着廣告...

大坂商船 發着廣告...

Casa Almeida & Irmãos 冬向大賣出し...

ホテル 末廣...

大坂商船 發着廣告...



## A Alemanha declarou guerra a União das Repúblicas Socialistas Soviéticas!

As duas potências se acham em guerra desde as 5 horas e meia de domingo — Proclamação do chanceler Hitler — A Rumânia e Finlândia lutam ao lado do Reich — Nota do ministério do Exterior germânico — Declaração do sr. Molotoff — A Rússia confia na vitória — A Alemanha previnem-se contra o ataque de paraquedistas — Regressou a Londres o embaixador Winant — Os primeiros encontros — Aviões russos abatidos — Em ação os couraçados de bolso — Odessa bombardeada — Avançam os alemães na Bessarábia — Marcham para Leningrado!

### Declaração oficial de Hitler ao povo alemão

BERLIM, 22 (T. O.) — Foi oficialmente anunciada a proclamação do fuehrer chanceler da Alemanha ao povo alemão, domingo de manhã, às 5 horas e meia.

### Guerra entre a Alemanha e a Rússia

BERLIM, 22 (T. O.) — A proclamação do fuehrer anunciou a guerra contra a União Soviética. A Finlândia e a Rumânia estão ao lado da Alemanha.

BERLIM, 22 (T. O.) — O sr. Hitler declarou hoje em seu discurso que a Rússia frauí o pacto de amizade com a Alemanha, agindo de maneira indigna.

### O texto da proclamação de Hitler

NOVA YORK, 22 — Eis o texto da proclamação do chanceler Hitler, lida no microfone pelo ministro da Propaganda, dr. Goebbels:

"A penetração da Rússia na Rumânia e a aliança grega com a Inglaterra ameaçavam colocar novas e grandes armas na guerra.

A Rumânia, entretanto, julgava poder resistir aos desejos da Rússia, caso recebesse garantias da Alemanha e da Itália.

Foi com grande pesar que eu fiz isto, mas se o Reich dá garantias ele as cumpre. Não somos nem ingleses nem judeus.

Pedi ao sr. Molotoff para vir a Berlim e pedi-lhe um esclarecimento sobre a situação.

Perguntou-me ele: "Essa garantia à Rumânia também está dirigida contra a Rússia?"

Repliquei: "Está dirigida contra todos. A Rússia jamais nos informou que tinha intenções muito maiores para com a Rumânia."

Perguntou-me Molotoff: "A Alemanha está preparada para defender a Finlândia, que de novo ameaça a Rússia?"

Respondi que o Reich não tinha interesses políticos na Finlândia, mas que outro ataque contra esse país não poderia ser tolerado, especialmente por não acreditarmos que a Finlândia estivesse ameaçando a Rússia.

A terceira pergunta de Molotoff foi: "A Alemanha sentir-se-ia agradavelmente surpreendida que a Rússia oferecesse garantias à Bulgária?"

Respondi-lhe que a Bulgária é um Estado independente e que não me consta precisarem os búlgaros de garantias."

Molotoff disse-me que a Rússia precisava passagem pelos Dardanelos e exigiu bases no Bósforo.

Dias mais tarde a Rússia concluiu o bem conhecido pacto de amizade com a Bulgária, com o evidente fim de incitar os búlgaros contra a Alemanha.

Moscou pediu a mobilização do exército séri-o.

Enquanto eu me conservava em silêncio, os homens do Kremlin avançaram mais um passo: a Rússia ofereceu-se para fornecer materiais bélicos contra o Reich. Isto sucedeu na época em que adverti o sr. Matsukata para fazer todos os esforços afim de diminuir a tensão do Japão com a Rússia.

Oficiais sérios voaram para a Rússia, onde foram recebidos como aliados.

A vitória do "eixo" nos Balcãs a princípio gerou o plano para que a Alemanha fosse envolvida em uma guerra longa, esperando que o Reich, com a ajuda americana aos ingleses, pudesse ser derrotado.

Chegou o momento em que não posso mais presenciar inativo o desenrolar dos acontecimentos.

Esperar mais significaria crime contra a Alemanha. Durante semanas, os russos

em cometido violações de fronteiras. Aviões russos têm procedido como se fossem senhores.

Na noite de 17 e na noite de 18 de junho, houve grande atividade de patrulhas. A marcha do exército alemão não tem precedentes na história militar do mundo.

Juntamente com os finlandeses, estamos agora a postos, desde Narvik aos Carpathos.

No Danúbio e nas margens do Mar Negro, estamos com Antonescu.

Soldados rumanos e alemães estão unidos.

A tarefa é salvaguardar os destinos da Europa e eu, por isso, decidi hoje colocar os destinos do povo alemão, do Reich e da Europa, mais uma vez, nas mãos dos nossos soldados."

BERLIM, 22 (T. O.) — A proclamação do fuehrer e a nota alemã enviada ao governo russo, lidas no rádio às primeiras horas da manhã de hoje, foram reproduzidas em edições extraordinárias em todos os jornais que começaram a aparecer pouco antes do meio-dia.

O "Voelkischer Beobachter", na sua edição especial deu o título de "Liquidação de contas com Moscou" ao seu noticiário sobre o assunto, aduzindo que o logo duplo foi descoberto pelo ministro das Relações Exteriores do Reich, sr. Joachim von Ribbentrop.

A notícia da guerra é dada ao povo alemão

BERLIM, 22 (T. O.) — O povo alemão soube do princípio da luta contra a Rússia domingo de manhã, precisamente às 5,30 horas, pela proclamação do fuehrer lida pelo ministro da Propaganda Joseph Goebbels.

Os rádio-ouvintes aguardavam para logo as primeiras horas da manhã uma notícia importante.

Nota do Ministério dos Exteriores alemão sobre documentos contra a Rússia, provando a participação inglesa e norte-americana

BERLIM, 22 (T. O.) — Domingo de manhã, às seis horas e 10 minutos, perante os representantes da Imprensa Alemã e Estrangeira, o ministro do Exterior do Reich, von Ribbentrop deu a conhecer a nota do Ministério dos Exteriores alemão ao governo Soviético.

O referido documento declara que o governo do Reich tem em seu poder numerosos documentos que provam o trabalho de sapa levado a efeito pelos agentes russos, atividades estas que não diminuíram depois do Tratado de Consulta e Não-Agressão de 23 de Agosto de 1939, sendo, ao contrário, notavelmente aumentadas, tanto no campo econômico, como político e militar. Inglaterra e Estados Unidos, também, ultimamente, estavam de comum acordo com esta lamentável atitude da Rússia.

BERLIM, 23 (T. O.) — Concomitantemente com a Proclamação do fuehrer, é publicada hoje uma nota do Ministério das Relações Exteriores do Reich, ao governo Soviético, demonstrando a violação do Pacto de Amizade, com exemplos do trabalho de sapa realizado no Reich e na esfera de influência alemã.

A nota termina com as palavras: "Contrariamente aos compromissos assumidos e, em contradição com seus solenes juramentos, o governo soviético voltou-se contra a Alemanha, prosseguindo em seus intentos de desagregação contra a Alemanha e a Europa, intensificando seus manejos de maneira a mais tor-

pe desde o princípio da guerra. A Rússia colocou na fronteira alemã todas as suas forças armadas, dispostas a marcharem ao primeiro sinal. Desta forma, o governo soviético demonstrou uma falta de cavalheirismo, uma brutalidade que não se justifica de maneira alguma e que somente era suportada pelos alemães, porque, estes, têm seus ideais, inquebrantáveis, e desejam levá-los a um triunfo esmagador contra os emergentes que agem na sombra com espantosa sanha destruidora e desumana.

O bolchevismo demonstrava há muito tempo um ódio mortal ao nacional-socialismo. Este ódio não encontrava válvula de evasão alguma — frente a frente — mas então, ia se tornando cada vez mais traçoceiro e subterrâneo. Os russos esperavam atacar a Alemanha pelas costas, de um momento para outro, não esquivando as causas alemãs, porque os soldados alemães morrem no campo de batalha.

O fuehrer já declarou a guerra à Rússia. A Alemanha marcha contra os russos com a mesma tranquilidade e técnica com que marchou contra seus inimigos de outros dias — disposta a liquidar a pendência e mais rapidamente possível, e a livrar o mundo inteiro dos perigos mortais do bolchevismo, aplinando o caminho para uma verdadeira ascensão social na Europa!"

A situação da Rússia

STOKOLMO, 22 (T. O.) — De 12,15 às 12,25 horas, o comissário dos Exteriores, Viacheslau Molotoff, leu uma declaração oficial do governo soviético, com violentos ataques à Alemanha. Informou que já na manhã de domingo, os aparelhos alemães haviam atacado o território russo.

As estações de rádio russas transmitiram a seguir um vasto programa de músicas guerreiras, com cores ukrainianas que cantavam marchas entusiásticas. Nos intervalos, os locutores dirigiam invectivas contra a Alemanha.

Berlim informa sobre o avanço soviético!

BERLIM, 22 (T. O.) — Informações do Alto Comando das Forças Armadas Alemãs sobre o avanço soviético foram dadas hoje em oito comunicações dirigidas ao governo do Reich e ao Ministério das Relações Exteriores, narrando detalhadamente as medidas militares tomadas pela Rússia contra a Alemanha.

Nestes relatórios assinala-se que desde 13 de Janeiro as tropas soviéticas vinham realizando violações territoriais. Um informe do chefe do Alto Comando, de 11 de Maio, dirigido ao Ministério dos Exteriores, declara que o Alto Comando obser-

va com preocupação crescente a concentração de forças armadas soviéticas ao longo da fronteira oriental alemã. Constatada esta concentração, desde o Mar Negro ao Báltico, o Alto Comando Alemão chegava à conclusão de que as tropas soviéticas vinham sendo preparadas para atacar o Reich no momento oportuno.

O Reich comunica à Turquia

ANKARA, 22 (D.) — O embaixador alemão na Turquia sr. von Pappen, comunicou, hoje pela manhã, ao governo turco a existência do estado de guerra entre a Alemanha e a U. R. S. S. e as medidas de defesa tomadas pelo Reich.

A Alemanha previnem-se contra o ataque de paraquedistas

BERLIM, 23 (T. O.) — O Alto Comando do Exército Alemão dá a saber domingo de manhã: "É necessário contar com que o inimigo lance agentes isolados ou tropas, por meio de paraquedistas, cuja finalidade seria efetuar atos de sabotagem e destruições na zona de operações e também na retaguarda alemã.

Por este motivo, exorta-se a população a proteger-se em tais casos contra toda eventualidade, agindo de comum acordo com o exército, polícia e gendarmaria. Não é excluída a hipótese de que o inimigo envie paraquedistas vestidos de civis, utilizando judeus de idioma alemão ou polaco. O auxílio da população limita-se à observação do lugar de aterrizagem e permanência do inimigo. Cada cidadão alemão que observar a descida de paraquedas, deverá comunicá-la imediatamente às centrais de polícia ou gendarmaria, dando também a hora e o local onde foi efetuada a ação inimiga."

Londres acredita num triunfo fulminante alemão!

STOKOLMO, 22 (T. O.) — Em Londres acredita-se no triunfo fulminante da Alemanha sobre a U. R. S. S. Com efeito, o locutor da rádio emissora britânica, referindo-se à questão, disse que a "Inglaterra deve estar preparada para as piores emergências", ou seja, deve admitir a

possibilidade de um fácil triunfo da Alemanha.

Russos e ingleses conversam

STOKOLMO, 23 (T. O.) — De Londres, anuncia-se que o embaixador russo Maisky celebrou domingo de manhã no "Foreign Office" prolongada conferência com o ministro dos Exteriores Eden. Os círculos oficiais britânicos mantem grande sigilo sobre o tema tratado.

Regressou a Londres o embaixador Winant

LONDRES, 22 (D.) — O embaixador americano nesta capital, sr. Winant, que fora a Washington há 4 semanas, para conferenciar com o presidente Roosevelt e outras altas personalidades do governo americano regressou ontem a esta capital, procedente de Montreal, em avião de bombardeio norte-americano.

O embaixador Winant conferenciou com o embaixador Maisky

LONDRES, 23 (D.) — O sr. Winant, embaixador americano em Londres, que regressou precipitadamente a esta capital logo que irrompeu a guerra teuto-soviética, conferenciou hoje com o sr. Maisky, embaixador soviético nesta capital. Não se sabe o que foi tratado nessa conferência, mas os círculos bem informados dizem que o embaixador britânico informou seu colega russo de que os Estados Unidos estariam preparados para prestar auxílio à União Soviética.

Declarações do enviado especial da agência "Tass" em Stokolmo

STOKOLMO, 22 (D.) — O enviado especial da agência "Tass" baseado-se no comunicado recebido diretamente de Moscou sobre o conflito surgido na Lituânia, declarou:

"Deu-se um conflito na Lituânia, na madrugada do dia 22, não tendo sido possível ainda qualquer solução.

As forças vermelhas estão atacando as forças inimigas. Não se trata ainda de notícia fidedigna, mas consta que as forças alemãs aprisionaram vários barcos auxiliares surtos no porto

de Tarim. Aqui se dão também violentos encontros entre as duas forças".

Vários aviões russos abatidos

BERLIM, 22 (D.) — A aviação soviética que se dirigia em grande massa para as regiões orientais da Prússia foi atacada pelos aviões germânicos, sendo repelidos.

Vários aviões vermelhos foram abatidos.

Em ação nos mares soviéticos os couraçados de bolso alemães

VICHY, 22 (D.) — A agência de informações J. F. B. informa que os couraçados de bolso germânicos estão agindo nos mares soviéticos. Consta ainda que foram postos a pique um navio mercante russo de 4 mil toneladas e um barco de pesca.

Karcow o objetivo alemão

VICHY, 22 (D.) — Notícias militares informam que o objetivo das forças alemãs é a capital da Ucrânia, Karcow, para onde estão sendo dirigidos os seus ataques.

Odessa bombardeada

ANKARA, 22 (D.) — Notícias aqui chegadas informam que a aviação alemã bombardeou a cidade de Odessa, importante posição soviética.

Avançam os alemães e rumanos na Bessarábia

BUCAREST, 22 (D.) — Os exércitos alemães e rumanos, aliados, romperam hoje de madrugada a linha russa de Pruth e entraram na Bessarábia e Norte Bucovina, segundo foi divulgado pelas autoridades.

Estas regiões foram arrebatadas pela Rússia da Rumânia em Junho de 1940. O primeiro ministro Antonescu acha-se à frente das forças rumanas como comandante-em-chefe.

Marcham para Leningrado!

STOKOLMO, 22 (D.) — Seguindo um telegrama de Helsinki, as forças teuto-finlandesas estão atacando violentamente o exército vermelho do estreito de Gálieia e avançam em direção a Leningrado.

## PROCLAMAÇÃO CONJUNTA KONOYE-WANG

### sobre a cooperação nipo-chinesa

TOKYO, 23 (D.) — Proclamação conjunta dos srs. Konoje e Wang-Ching-Wei:

"Fizemos há tempos declarações, separadamente, sobre a construção da nova ordem na Ásia Oriental, visando a colaboração econômica, defesa comum contra o comunismo e a amizade e boa vizinhança, afim de marcharmos ao nosso objetivo comum que é a solução do conflito e o reerguimento da Ásia Oriental. O tratado fundamental nipo-chinês, assina-

do a 30 de Novembro do ano passado e a proclamação comum nipo-mandchú-chinesa, não têm outro scopo. O significado da nova ordem na Ásia Oriental está em expulsar o imperialismo invasor e o comunismo, baseando-se no espírito moralista, característico da Ásia Oriental e fundar nações aliadas para a comum prosperidade.

Entre o povo chinês, há muita gente que não obstante desejar a cooperação nipo-

chinesa, não acredita ainda na sua exequibilidade. Somente esforçando-se para a concretização desse ideal, com o apoio da maioria do povo, atingiremos a paz almejada.

Nós, após as conversações que tivemos, prometemos trabalhar, com desdobrado esforço, para alcançar o objetivo comum. O governo nacionalista se esforçará para fazer saber ao povo chinês que é missão comum ao Japão e à China trabalhar pelo reerguimento da Ásia,

fornecendo dados concretos sobre a colaboração política, militar, econômica e cultural entre os dois países. O governo japonês esforçar-se-á para auxiliar o governo de Nankin afim de que este possa desenvolver plenamente suas capacidades de nação livre e independente, para dividir a responsabilidade da obra de estabelecimento da nova ordem na Ásia Oriental.

(aa) Fumimaro Konoje Wang-Ching-Wei.

# A ATITUDE DAS POTENCIAS EM FACE DA GUERRA TEUTO-SOVIETICA

## Reune-se o governo nipónico — A atitude dos Estados Unidos — A Italia, ao lado da Alemanha — A Turquia e a Suécia estão neutras — A Bulgária e Hungria preparam-se para entrar na guerra — A Espanha enviaria voluntarios — A Croácia ao lado do "eixo"

### REUNIAO DO MINISTERIO DO EXTERIOR JAPONES

**TOKYO, 22 (T. O.)** — Para deliberar a respeito de questões relacionadas com a guerra russo-germânica, reuniram-se domingo à tarde, sob a presidência do ministro dos Exteriores Matsuo, todos os chefes de seção do Ministério dos Exteriores. Logo a seguir, o sr. Matsuo celebrou uma conferência de uma hora com o embaixador alemão, general Ott. Depois, o sr. Matsuo foi visitar o príncipe Konoye.

### REUNE-SE O GOVERNO JAPONES

**TOKYO, 22 (T. O.)** — Comunica-se que às nove horas da manhã de segunda-feira (hora local) será celebrada na Presidência do Conselho dos Ministros um conselho extraordinário do governo japonês e do Alto Comando do Exército Nipónico.

### OS ESTADOS UNIDOS E A NOVA SITUAÇÃO

**WASHINGTON, 22 (U. P.)** — Em esferas autorizadas, vincula-

das ao Departamento de Estado, declarou-se que o ataque da Alemanha contra a Rússia é uma prova convincente de que Hitler projeta dominar todos os países do mundo e que a força é o seu principal instrumento para realizar esses planos.

O sub-secretário de Estado, sr. Sumner Welles e outros altos funcionários desse Departamento dirigiram-se às suas repartições, afim de examinar as possibilidades que surgem do conflito russo-alemão e considerar a política que os Estados Unidos seguirão a respeito, mas ao mesmo tempo, um funcionário autorizado declarou que "nada havia a informar no momento".

Exteriormente, ao menos, os círculos oficiais desta capital receberam os sensacionais acontecimentos bélicos com toda a calma, e em contraste com a febril atividade que se registou na Casa Branca e no Departamento de Estado, quando a Alemanha invadiu outros países europeus, esta vez não houve qualquer atividade extraordinária.

### A ITALIA OMBRO A OMBRO COM A ALEMANHA

**BERLIM, 22 (T. O.)** — Domingo de manhã, o embaixador italiano em Berlim, Dino Alfieri, visitou o ministro dos Exteriores do Reich, sr. Ribbentrop, comunicando-lhe que a Itália está ombro a ombro com a Alemanha na nova luta.

**ROMA, 22 (T. O.)** — Toda a Itália recebe com alto entusiasmo a notícia da guerra contra a Rússia.

O comunicado oficial publicado hoje à tarde assinala que a sombra do Kremlin vai ser eliminada agora, à luz clara do sol, pelos canhões e aviões do "eixo", que se encarregarão de destruir a massa sombria da sede da barbarie russa. A Itália, lídima representante da Civilização Romana e Cristã contra as trevas da barbarie, marcha juntamente com os alemães para a luta.

**ROMA, 22 (T. O.)** — Não obstante a justa surpresa, o povo italiano recebe a notícia da guerra com a Rússia tranquilamente registrando-se mesmo regozijo popular pelo fato de finalmente ter chegado a hora das resoluções supremas.

O edifício da Embaixada Soviética não está cercado por patrulhas militares como fora feito no caso da Legação Iugoslava. Espera-se com grande calma a declaração oficial italiana sobre a declaração de guerra à Rússia.

### A FRANÇA EM FACE DO CONFLITO

**VICHY, 22 (T. O.)** — A Rádio Francesa informou domingo o público francês sobre o início das hostilidades russo-germânicas, e, fazendo alguns comentários, declarou:

"A Rússia está isolada, devendo defender-se sozinha numa frente de dois mil e quinhentos quilômetros contra a coalizão germano-rumeno-finlandesa. O potencial industrial e econômico da Rússia acha-se bem próximo das posições alemãs na fronteira. Leningrado — centro da indústria pesada russa — acha-se a apenas 100 quilômetros do limite com a Finlândia. Kiev — capital da Ucrânia encontra-se a quatrocentos quilômetros e Odessa a cem quilômetros da fronteira rumena de Charkow, enquanto que Moscou dista aproximadamente 700 quilômetros.

Gracias à motorização e ao formidável poder dos aviões, é óbvio que o problema que tão difícil se apresentou a Napoleão no seu tempo é hoje facilmente solúvel. A aviação russa foi há seis anos atrás bastante forte,

mas agora, acha-se diante de um inimigo muito bem treinado com máquinas moderníssimas, enquanto que os aparelhos russos não chegam sequer a competir com os mais antigos modelos alemães".

Concluindo, o locutor francês declara que a Rússia acaba de dar um salto no escuro, por obra de políticos malucos.

### RUMANIA AO LADO DA ALEMANHA — O CHEFE DO GOVERNO ANTONESCU A FRENTE DAS SUAS TROPAS

**BUCAREST, 22 (D.)** — O primeiro ministro Antonescu declarou às forças armadas de toda a Rumania que o seu país lutaria ao lado da Alemanha para a reconquista dos territórios perdidos.

O próprio chefe do governo acha-se à frente das suas forças em marcha para as regiões da Bessarábia e Bucovina.

### A TURQUIA PROCLAMOU A SUA NEUTRALIDADE

**ANGORA, 22 (T. O.)** — A respeito da neutralidade da Turquia na guerra germano-russa, publicou-se domingo à noite o seguinte:

"Em vista da situação criada pela guerra entre a Alemanha e a Rússia, o governo da República turca tomou a resolução de proclamar a inteira neutralidade da Turquia".

### AS RELAÇÕES TURCO-ALEMÃS

**ANKARA, 22 (T. O.)** — O ministro das Relações Exteriores turcas, sr. Saracoglu, recebeu, domingo ao meio-dia a representação da imprensa alemã, expressando por esta ocasião sua

gratidão pelas atividades germânicas, e, particularmente pela amistosa atitude tomada em relação à Turquia. O ministro Saracoglu manifestou-se esperançado no estreitamento das relações estabelecidas entre ambos os países.

### OS TURCOS AGUARDAM TRANQUILAMENTE OS ACONTECIMENTOS

**ANGORA, 22 (T. O.)** — A Rádio Turca — em emissões especiais — informou ao público sobre a irrupção da luta russo-alemã. Embora o povo houvesse sido avisado constantemente há tempos sobre fortes concentrações de tropas em ambos os lados da fronteira germano-soviética, a notícia do conflito produziu certa surpresa.

A Turquia está especialmente interessada nos acontecimentos futuros, pois a Rússia, desde há séculos, sempre foi inimiga tradicional dos turcos apesar de nos últimos 20 anos, Moscou tentado uma aproximação diplomática.

Ao inteirar-se da exigência russa relativa a pontos de apoio no Bósforo e nos Dardanelos, o público turco demonstrou alta indignação contra russos e ingleses. Os círculos diplomáticos otomanos sabiam destas exigências há muito tempo. Por este motivo, as fronteiras turcas estão devidamente guardadas, podendo-se mesmo afirmar que não existe o mais remoto perigo para a Turquia.

### A ITALIA EM GUERRA COM A U. R. S. S. — COMUNICAÇÃO FEITA PELO CONDE CIANO AO EMBAIXADOR SOVIETICO

**ROMA, 22 (D.)** — O ministro das Relações Exteriores da Itália, conde Ciano solicitou, hoje, cedo, o comparecimento do embaixador soviético junto ao governo italiano, comunicando-

lhe que a Itália se achava em estado de guerra com a U. R. S. S. a partir das 5,30 horas de hoje.

### BULGARIA E HUNGRIA PREPARAM-SE

**BERLIM, 22 (D.)** — A Bulgária e a Hungria esperam uma ocasião oportuna para entrar em guerra.

### A ESPANHA ENVIARIA VOLUNTARIOS

**MADRID, 22 (D.)** — O general Franco, ao ter notícia da abertura das hostilidades entre a Alemanha e a U. R. S. S., conferenciou longamente com o sr. Suner, ministro do Exterior, sobre a atitude a ser tomada pela Espanha. Os dois políticos partiram às 14 horas de Madrid, com destino ignorado. Quanto à conferência, consta que foi nela estudado o envio imediato de voluntários.

### A CROACIA AO LADO DO "EIXO"

**ZAGREB, 22 (D.)** — O chefe do governo da Croácia sr. Pavelitch fez a seguinte declaração sobre a atitude do país:

"A Croácia cumprirá, com satisfação, todos os seus deveres provenientes do pacto tripartite. Fazemos votos de uma rápida vitória da Alemanha e seus aliados contra o nosso inimigo comum".

### A SUECIA CONSERVAR-SE-A NEUTRA — AS MEDIDAS QUE ESTÃO SENDO TOMADAS

**STOKOLMO, 22 (D.)** — O porta-voz do governo da Suécia declarou que o seu país conservará-se neutro em face da atual guerra russo-alemã. Foi expedida ordem de regresso aos navios em movimento no mar Báltico, e suspensa também a licença concedida aos militares.

## O discurso do sr. Churchill O ataque ao nazismo — Todo o auxilio a U. R. S. S.

**LONDRES, 22 (D.)** — O primeiro ministro inglês, sr. Churchill pronunciou um longo discurso pelo rádio, referindo-se à guerra russo-alemã. E' o seguinte o seu resumo:

"Decidi falar-vos esta noite porque chegamos a um dos momentos culminantes da guerra. No primeiro destes momentos decisivos, há um ano, a França caiu prostrada sob o machado alemão. E nós, desde então, tivemos de enfrentar sozinhos a tormenta. No segundo momento, a Royal Air Force expulsou os humos do céu do Canal, impedindo assim a invasão nazista nesta Ilha. Nesse meio tempo, armamo-nos e preparamo-nos. O terceiro momento decisivo foi quando o presidente e o Congresso dos Estados Unidos aprovaram a lei de empréstimos e arrendamentos e a verba de quase 2.000 milhões de libras esterlinas, seja do Novo Mundo para nos auxiliar a defender a nossa liberdade e a deles.

Foram estes os instantes supremos. O quarto apresentou-se agora: às 4 horas da manhã de hoje a Alemanha atacou e invadiu a Rússia.

Tudo isto não é surpresa para mim. De fato, preveni Stalin, clara e positivamente, do que estava para vir. Avisel-o, como avisei anteriormente as outras vítimas do nazismo. Espero, apenas, que este aviso não tenha sido em vão. Tudo o que sabemos, no momento, é que o povo russo está defendendo o solo pátrio e que os seus líderes apelaram para o povo, afim de que resistisse o mais possível.

Hitler é um monstro, dominado por uma insaciável sede de sangue. Não satisfeito de ter sob a sua botá quasi toda a Europa, então aterrorizada sob as mais variadas formas de abjeta submissão, ele agora quer continuar a sua obra de agougueiro entre os povos da Rússia e da Ásia. A terrível máquina militar, que nós e o resto do mundo civilizado, tão insensata e descuidadamente, permitimos aos "gangsters" nazistas construir, quasi do nada, durante anos consecutivos, não pode estar inativa, para que não desarticule e caia em pedaços. Deve estar em movimento contínuo, destruindo vidas humanas, arazando lares e os diretos de centenas de milhões de

homens. E esta máquina não é alimentada apenas com carne e com sangue, mas também com petróleo. Agora, o insaciável sorvedor de sangue humano lançou os seus exércitos mecanizados sobre novos campos de assassinio, pilhagem e devastação. Pobres como são os camponeses, operários e soldados russos — ele ainda decidiu roubar-lhes o pão quotidiano. Decidiu devorar suas colheitas. Decidiu roubar-lhes o petróleo que alimenta seus arados, e assim produzir uma fome sem precedentes na história humana. E a carnificina e a ruína que a sua vitória, caso ele a conquiste — ainda não a conquistou — levará ao povo russo não serão mais do que marcos no caminho que ele seguirá para tentar escravizar os 400 ou 500 milhões de seres humanos, que vivem na China, os 350 milhões que vivem na Índia.

Não é muito dizer-se que hoje nesta tarde de verão, vivem milhares de milhões de seres humanos ameaçados pela brutalidade e violência dos nazistas. Isto é o bastante para nos afiligr. Mas, presentemente, mostrar-vos-el algo que está alem e que está em contacto muito estreito com a vida da Inglaterra e a dos Estados Unidos.

O regime nazista não se distingue das piores características do comunismo. Nega todos os princípios, com exceção da ambição e do domínio racial. Sobrepuja a maldade humana em todas as formas, pela sua crueldade e suas ferozes agressões. Ninguém tem sido mais positivo em opor-se ao comunismo do que eu, dentro dos últimos vinte e cinco anos, e não contradirei nenhuma das palavras que tenho pronunciado a esse respeito. Entretanto, todos esses fatos ficam muito distantes, diante do espetáculo que ora se desenrola. O passado, com seus crimes, tolices e tragédias, perde-se ao longe. Vejo os soldados russos prontos para defender sua pátria, guardando o solo que seus antepassados lhes legaram desde tempos imemoriais. Vejo-os guardando os seus lares, onde esposas e mães fazem preces em prol dos seus filhos. Sim, porque não há dia em que preces, feitas pelas pessoas amadas e pelo pão de cada dia, sejam em vão. Vejo, na Rússia, dezenas de milhares de povos

onde os meios de subsistência são extraídos do solo com grandes sacrifícios, mas onde as principais virtudes humanas ainda continuam intactas e os sorrisos das jovens mães alentam os filhos. Vejo, avançando sobre tudo isto, a enérgica máquina de guerra nazista, arazando e avassalando tudo e pela qual garbosos oficiais prussianos, naturalmente especializados em tal mister, livres do massacre, botam abaixo a integridade da nação. Vejo, também, massas brutalizadas de soldados estúpidos, mas treinados, avançando lentamente como um réptil asqueroso. Vejo bombardeiros e caças germânicos, ainda manchados de desgraça que lançaram entre as famílias inglesas, voarem sob os céus russos. E atrás de toda esta tormenta vejo um pequeno grupo de homens nojentos, que planejou, organizou e desencadeou este mundo de horrores sobre a humanidade. Então, lembro-me dos anos passados, quando os exércitos russos eram os nossos aliados contra o mesmo inimigo mortal, quando lutaram com tanto valor e constância e nos auxiliaram a ganhar a vitória.

Esta é a nossa política. Esta é a nossa declaração. Segue-se, portanto, que prestaremos à Rússia e ao povo russo todo o auxilio possível. Apelaremos para os nossos amigos e aliados, em todas as partes do mundo, para que sigam os mesmos propósitos, assim como nós não nos desviaremos de nossos objetivos até o fim. Já oferecemos ao governo da Rússia toda a assistência técnica e econômica ao nosso alcance e que, possivelmente, o auxiliará grandemente".

### Vai ser fechado o consulado italiano de Manila

**MANILHA, 23 (D.)** — O Consuldo Italiano desta cidade recebeu ordem de fechamento do governo norte-americano. O conselheiro San Marino seguirá, em princípios do mês vindouro, para Shanghai.

## O fortalecimento do gabinete inglês

**LONDRES, 20 (D.)** — O primeiro ministro britânico, senhor Churchill, levando em consideração a atual situação militar da Inglaterra, resolveu deixar a pasta do Ministério da Defesa Nacional, nomeando para esse elevado posto o comandante geral das forças britânicas de Canadá, atualmente em Londres ou o atual ministro da Guerra.

## O Japão conservar-se-á em cuidadosa expectativa

### O que informa a agência "Associated Press" de Tokyo

**TOKYO, 23 (A. P.)** — Sabemos nos meios bem informados daqui que a política do Japão parece ser a de, no momento, conservar-se em cuidadosa expectativa, não havendo nenhuma demonstração de que a Alemanha procure invocar cláusulas do pacto tripartite, em vista da redação do artigo terceiro onde claramente se emprega a palavra "atacada" e diante dessa circunstância, na qual a Alemanha declarou a guerra, é provável que o Japão possa honestamente manter todas as suas obrigações em seu acordo com a Rússia, inclusive o pacto de "neutralidade". O tenente-coronel Hiroshi Akita, ex-adido militar na embaixada de Berlim, disse que "não se pode esperar que apenas umas lutas de pequena importância, na fronteira, tragam a paz". O sr. Akita, sendo entrevistado pelo jornal "Hochi" disse que "os mais versados ressaltam que, com esses acontecimentos, terminará o auxilio da Rússia a Chang-Kai-Shek, o qual terá de depender mais do que nunca do auxilio dos Estados Unidos".

**TOKYO, 23 (A. P.)** — Ainda sobre as consequências da guerra russo-germânica, diz-se

aqui que o Japão poderá cumprir com todas as suas obrigações do pacto tripartite e do seu pacto de "não-agressão" com a Rússia. Entretanto, a expansão das hostilidades tornam a expectativa a respeito da atitude dos Estados Unidos ainda muito mais importante do que anteriormente, desde que os aliados do Japão ficam isolados do contacto com ele pela Rússia.

Durante a última sessão do gabinete, o ministro das Relações Exteriores, sr. Matsuo, falando a respeito do pacto tripartite, disse que as cláusulas tornavam claro que o pacto não era feito contra a União Soviética. Os meios autorizados, tanto neutros como do "eixo", dizem que não se espera que o Japão tome qualquer atitude diante das cláusulas do pacto tripartite, neste momento. Acrescenta-se que uma leitura cuidadosa das cláusulas de ambos os pactos, indica que eles não incluem nenhuma reação que não possa ser atendida, embora recente acordo comercial do Japão com os Soviéticos possa ser diferente.

## "A notícia é muito boa para ser verdadeira"

### DIZ BERNARD SHAW, COMENTANDO A INVASÃO DA RÚSSIA PELOS ALEMÃES

**LONDRES, 22** — O grande humorista irlandês, George Bernard Shaw, comentando a invasão da Rússia pela Alemanha, declarou: "A notícia é muito boa para ser verdadeira. Está acima de nossas melhores expectativas. Ainda ontem nós e os Estados Unidos estávamos diante da tremenda tarefa de esmagar Hitler enquanto Stalin apenas apreciava os acontecimentos e sorria. Hoje, devido à inconce-

bível tolice de Hitler, nada mais temos a fazer do que nos sentar e esperar, sorrindo, enquanto Stalin esmaga o chanceler alemão. Veremos agora, o que acontecerá. Para mim, a Alemanha fez um péssimo negócio. Ou Hitler é mais tolo do que eu suponha ou enloqueceu completamente. O que não posso conceber é porque ainda há gente que acredita que Hitler possa derrotar a Rússia" — concluiu Bernard Shaw.

## O PRIMEIRO COMUNICADO RUSSO

**MOSEOU, 23 (U. P.)** — O primeiro comunicado de guerra russo, sobre as hostilidades com a Alemanha, diz o seguinte:

"Na madrugada de 22 de Junho, as tropas regulares inimigas atacaram nossa fronteira, desde o Báltico até o Mar Negro.

"Durante as primeiras doze horas, depois de ser iniciado o ataque, nossas tropas fronteiriças contiveram a ofensiva inimiga. Durante as segundas doze horas, o inimigo se empenhou em luta com as primeiras unidades de nosso exército regular, sendo sido derrotado e dispersado.

uma violenta luta, com pesadas baixas.

"Somente nos distritos de Groano e Kristinopol, o inimigo logrou alguns êxitos táticos e ocupou as pequenas cidades de Kalveria, Stovianov e Tchanov, a primeira das quais situada a 15 e as outras duas a 10 quilômetros da fronteira.

"A aviação inimiga atacou certo número de nossos aeródromos e localidades, mas foi contida em todas as partes pelas energias ações de nossos aparelhos de caça e pela artilharia anti-aérea. O inimigo sofreu elevadas perdas e 65 de seus aviões foram derrubados".

# O embaixador Ishii homenageou o chanceler O. Aranha e senhora

## O brilhante banquete na embaixada japonesa

### As personalidades presentes — Saudações trocadas

Revestiu-se de brilho extraordinário o banquete que o embaixador do Japão ofereceu no dia 19 ao chanceler Isvaldo Aranha e senhora, no palácio da Embaixada.

O salão de recepção, ricamente adornado, acolheu por momentos os convivas, que entreteram palestra, enquanto se não passava, para a sala de banquetes. O ambiente de requintada elegância, dominado pela tradicional distinção hospitalar da raça nipônica, logo se transferiu para o salão de jantar. Ai o sutil e discreto gosto japonês se manifestou na bela disposição cada à mesa, em volta da qual a severidade das casacas e o aspecto das "toilettes" femininas ocidentais contrasta-

vam com a graciosidade das vestes multicores nipônicas trazidas pelas senhoras da Embaixada. A sobremesa o embaixador do Japão, sr. Itaro Ishii, dirigiu uma saudação ao chanceler Osvaldo Aranha. Em sua curta oração, o representante do Império do Sol Nascente externou o seu grande prazer por prestar, em nome do seu governo a homenagem ao nosso ministro do Exterior, pois assim tinha, mais um ensejo para realçar a sua admiração pela personalidade ilustre que é o chanceler brasileiro, eminente continuador da obra de grandes figuras como o barão do Rio Branco, sempre a se conduzir com tato infinito na direção do Itamarati.

O chanceler Osvaldo Aranha, agradecendo, evidenciou a sua satisfação pela homenagem recebida, mais uma prova da extrema finura com que a diplomacia se conduz, e depois de afirmar ser aquele gesto um eloquente ato de cortesia para com o nosso governo, recordou o que vem sendo a grande amizade nipo-brasileira.

Após o banquete, a insigne pianista brasileira, Madalena Tagliarferro proporcionou um pouco de pura arte, na interpretação de páginas de mestres. Tomaram parte no banquete, além do chanceler Osvaldo Aranha e senhora e do embaixador Itaro Ishii: embaixador Maurício Nabuco, embaixador Leão Veloso e senhora, ministro José

Roberto de Macedo Soares e senhora, ministro Antonio Carlos de Oliveira e senhora, ministro Carlos Maximiliano de Figueiredo e senhora, consul Antonio P. Castelo Branco Filho, dr. Leuval Fontes e senhora, coronel Benjamin Vargas e senhora, professor dr. Annes Dias e senhora, dr. Costa Rego, dr. Herbert Moses e senhora, sr. Tarciso Tostes e senhora, conselheiro Takashi Mori e senhora, primeiro secretário Taçao Kudo, segundo secretário Suetaka Hayao, adido comercial Kunimitsu Katsuyama e senhora, adido militar Yeichi Koko e adido Nishi Sato.

(Fotografias na pag. jap.)

# Uma interessante carta

## endereçada a um japonês de Marília por um soldado japonês da China

Damos abaixo o resumo de uma carta de agradecimento dirigida pelo sargento Uchida, pertencente a um dos batalhões em operação na China ao sr. Kihara, um japonês residente em Marília. É uma carta de agradecimento dos soldados japoneses enviada aos japoneses residentes no Brasil pela sua grande simpatia, demonstrada à ação heróica das forças imperiais no atual conflito. O soldado refere-se em particular no recebimento, há pouco, de "sacolas de consolação" enviadas pelos japoneses do Brasil.

É o seguinte o resumo da carta: "Não podemos exteriorizar em palavras a emoção que invade a nossa alma quando recebemos as "sacolas de consolação". Cada objeto que retiramos das sa-

colas, experimentamos uma sensação inexplicável em todo o nosso corpo. Sou de Hokkaido e estou aqui nas frentes de batalha desde 1938. Já tomei parte em múltiplas batalhas, mas não sei se fui feliz ou infelizmente, nunca fui ferido. Atualmente estou distante de Shanghai algumas centenas de quilômetros servindo numa guarnição.

Julgamos que vv. ss. já estão ao par, mas desde que o governo de Chungking incentivou o terrorismo na China, reina em todas as regiões, constante perigo. Os batalhões de genêrmas japoneses estão tomando medidas rigorosas no sentido de eliminar por completo as organizações terroristas. Entretanto, há ainda duas ou três organizações em ação. Essas organizações oferecem para cada morte de oficial cerca de mil yen (5 contos de

réis) Quando pensamos na simpatia dos japoneses do exterior não podemos deixar de fazer todo o esforço possível para agir de acordo com o desejo geral de todos os japoneses lutar até a vitória final pela sagrada campanha chinesa."

### Noite de São João

S. JOAO DE 1941

Nesta festa de São João de 1941, este laovar e esta recordação. E' de Regina Bittencourt.

— Que diferença, meu amigo, do nosso S. João de outrora! Lembra-se? Um mês antes, fazíamos profetas... as balões... as sortes, a foguetaria... tudo era adrede preparado... E quando a dia chegava... Os jogos... as esperanças... as incertezas... Recordá-se? Foi em um S. João que conheci a amá-lo, depois de ter decepção. Colocara na vespera o tradicional prato cheio de água, ao sereno, com uns papéis aonde havia escrito todos os nomes de rapazes conhecidos... No dia imediato só um se encontrava aberto, — o seu nome! Fiquei triste! A primeira pessoa que recebera a minha mágoa foi você... "Vê", disse-lhe, "saíu aberto o nome, seu... pois a única criatura que conheço com este nome é você, e é impossível qualquer probabilidade de casamento entre nós". Você olhou-me de um modo tão singular, tão diferente, tão triste que só naquele instante pude compreender que me amava, que não era para você a amiguinha de infância, e sim o seu amor... Como vai longe esse tempo!

— Depois, no outro S. João, fomos ficar atrás da porta, para ouvir o primeiro nome que pronunciasse, se fosse masculino, seria homem, se fosse feminino... E eu queria tanto que fosse mulher!

— E hoje? Como tudo mudou! Não há mais sereno familiar; não céu, um outro balão; sortes, jogos, tudo acabou... Estamos nós aqui, dois velhos, no inverno da vida, a viver de lembranças, a pensar naquele que se diz "retrilhon", em qualquer clube "chic"... Sós, completamente sós... — Sós, não minha querida... Com a nossa recordação, não é tudo? Depois... isto é a marcha acelerada do progresso. A mocidade de hoje esquece a juventude nestes dias de festas; o "jeje", o "campagne", os "cocktails", substituíram-na. As ilusões, as esperanças das sortes não nos amam mais nestes cérebros moços; querem a realidade, a vida, seja ela qual for, linda... feia... alegre... triste... mas a realidade sempre. Que tem, querida? Por que chora? Saudade! — Sim, meu amigo, saudade! Saudade desse tempo que não volta mais! Nunca mais!

— Ao longe estovava um foguete, e as lágrimas de fogo que ele deixava, não brilhavam tanto como aquelas que caem daquelas almas tristes. Lágrimas de saudade! Lágrimas de recordação!... — M.

# Escolhido o representante da Sorocabana

## para o Campeonato Infantil Inter-Colonial de Basebol

O jogo preliminar, para escolher a turma representante da Sorocabana para o Campeonato Infantil Inter-Colonial de Basebol, realizou-se em Presidente Prudente, com a participação do "team" local, de Alvares Machado e Paraguassú. O vencedor foi o Presidente Prudente. O Alvares Machado e o Paraguassú empataram por 11 x 11, e para o desempate, tiveram que prolongar o jogo até a 13ª partida, vencendo por diferença de um ponto o Alvaro Machado. Eis o resultado dos jogos: Presidente Prudente: 2 jogos e 2 vitórias. Alvares Machado: 1 vitória e 1 derrota. Paraguassú: 2 jogos e 2 derrotas.

Paraguassú: 0 1 2 0 0 6 2 0 0 0 0 0 — 11. Alvares Machado: 1 7 0 0 0 3 0 0 0 0 0 0 1 — 12. Paraguassú: 1 0 1 0 2 0 0 — 4. Presidente Prudente: 0 0 0 0 5 0 1 — 6. Alvares Machado: 0 1 0 0 0 1 0 — 2. Presidente Prudente: 1 0 1 1 3 2 9 — 17. Como dissemos o Presidente Prudente venceu a preliminar e conquistou o lugar de representante da Sorocabana. Foram também já selecionados os representantes para o Campeonato Infantil Inter-Colonial de Atletismo.

# Resultados da competição de atletismo de Presidente Prudente

Realizou-se no dia 15 do corrente a competição Atletica da região Presidente Prudente. Tomaram parte nesse certame esportivo os seguintes clubes locais: Shôsei, Presid. Prudente, Boa Vista, Penteado, Anhumas, Repolho, Viçação e Asialândia. Ao todo somavam cerca de 130 esportistas. Damos abaixo os resultados gerais: 100 METROS: 1.º — Miura, tempo, 12,1; 2.º, Ito; 3.º, Hanashiro. 200 METROS: 1.º, Yanagui, tempo, 25,3; 2.º, Takahashi; 3.º, Hanashiro. 400 METROS: 1.º, Iibe, tempo, 59,2; 2.º, Kikuchi; 3.º, Tsujie. 700 METROS: 1.º, Tsujie, tempo, 2,20,5; 2.º, Oshiro; 3.º, Hachisuga. 1.500 METROS: 1.º, Akiyama, tempo, 4,29; 2.º, Oshiro; 3.º, Yasuda. 5.000 METROS: 1.º, Akiyama, tempo, 17,20,5; 2.º, Nagai; 3.º, Semaru. 10.000 METROS: 1.º, Akiyama, tempo, 38,23; 2.º, Saito; 3.º, Semaru. REVEZ, 4 x 100 METROS: 1.º, Pres. Prudente, tempo, 50,8; 2.º, Anhumas; 3.º, Boa Vista. REVEZ, 4 x 400 METROS: 1.º, Pres. Prudente, tempo, 4,04,1; 2.º, Boa Vista; 3.º, Shôsei. SALTO DE ALTURA: 1.º, Miyasato, 5ms.93; 2.º, Miura; 3.º, Nakahara.

SALTO EM EXTENSÃO: 1.º, Miyasato, 5ms.93; 2.º, Miura; 3.º, Takayama. SALTO TRIPLO: 1.º, Saito, 11ms.80; 2.º, Matsumoto; 3.º, Miyasato. SALTO COM VARA: 1.º, Fukuda, 3ms.20; 2.º, Tamashiro; 3.º, Tanigawa. ARREMESSO DE PESO: 1.º, Hanashiro, 9ms.63; 2.º, Yamasa; 3.º, Takayama. ARREMESSO DE DISCO: 1.º, Okamoto, 25ms.30; 2.º, Takayama; 3.º, Kakuia. ARREMESSO DO DARDO: 1.º, Saito, 45ms.56; 2.º, Yano; 3.º, Kinoshita.

Anuncios eficientes? Só no "BRASIL ASAHI", jornal de maior circulação na Colônia Nipônica. Tel. 7-3326

# São Paulo Esporte Clube

## Assembléia de Fundação

Conforme noticiamos há dias, o "São Paulo Baseball Clube", desta capital, dissolveu-se, para organizar o "São Paulo Esporte Clube", com seções de basebol e atletismo. A assembléia de fundação da nova entidade realizou-se dia 20 p.p. a partir das 20 horas, no Hotel Tokiwa. Tomaram parte cerca de 40 pessoas, relacionadas com o basebol e o atletismo. O sr. Ishiwara explicou os motivos da fundação do novo clube e a seguir foi discutido o projeto de estatutos. O "São Paulo Esporte Clube" pertencerá à filial da região de

São Paulo do Clube Atlético Colonial e os clubes esportivos da colônia que dele não fizerem parte não poderão realizar jogos ou competições de acordo com a lei em vigor. A diretoria do novo clube ficou assim constituída: Presidente — Keizo Ishiwara. Vice-presidente — Não determinado. Directores — Ishida, Hara, Mi-no e Esashika. Tesoureiro — Yagi e Oda. Haverá três categorias de sócios, cujas mensalidades são de 10, 5 e 3 mil réis.

# Luta de longa duração

## (Fatos diversos)

Os rapazes do "curso prático de agricultura" que estavam atacados de gripe, já recuperaram a saúde — são jovens fortes do interior — e estão assistindo as aulas do curso. BAIÁ, 20 (A. N.) Vem se verificando nesta Capital, considerável alta no preço do arroz. Atribue-se essa alta à escassez do cereal no mercado — balanço motivada, principalmente, pelas enchentes do Rio Grande do Sul. O quilo do arroz, que durante a semana passada estava a 1\$3000 no varejo, passou agora a 2\$000. S. SALVADOR, 20 (A. N.) Pessoas recém-chegadas da estação mineral de Caldas do Cipó acaba de informar à imprensa que nasceu ali um cabrito de

duas cabeças, ambas perfeitas e distintas; tratando-se de tipo espécimen teratológico. Adiantou a informante que o animal está sendo exibido entre veranistas, revertendo o dinheiro das exhibições em benefício dos pobres da cidade. O sr. Braudo Rolon que foi ao Japão no 12 anos de idade, apareceu sábado último no consulado japonês e disse que ia cantar canções japonesas na "Hora do Japão" de uma emissora desta capital, pedindo, por isso, fosse indicado o nome de essas canções japonesas para fazer reclame. No consulado do sr. Rolon parou algumas canções do Japão e pela sua perfeição deixou boquiabertos os japoneses que ali se achavam. SHANGHAI, 21 (T. O.) — Pela primeira vez, uma unidade da frota das Índias Holandesas

participou de ato de guerra. O navio em referência, esteve no Estreito de Sunda, entre Java e Sumatra, tendo chamado à fala o mercante francês "Compiègne", de 9.996 toneladas, que se dirigia de Marselha a Arignon, obrigando-o a ancorar no porto Priox. TRUJILLO, 21 (T. O.) — De acordo com o desejo expresso pelo governo espanhol a 26 de Junho será comemorado o 400.º aniversário da morte de Pizarro fundador da capital peruana. ROMA, 21 (U. P.) — Segundo se informa nesta capital, os proprietários de confeitarias, bares e outros estabelecimentos congêneres, terão que modificar sua linguagem comercial, pois a comissão da Real Academia da Língua Italiana, em sua última reunião, italianizou uma dezena de nomes de licores e "cocktails". Doravante, os italianos desejosos que quiserem tomar um Panteri Punch terão que pedir um "Ponce del Colonne".

# POLA NEGRI VAI A HOLLYWOOD

LISBOA, 20 (U. P.) — A artista cinematográfica Pola Negri chegou a esta cidade, vinda de Nice, em viagem para Nova York, de onde seguirá para Hollywood para fazer parte de uma nova película. A famosa "estrela" declarou que havia passado estes últimos meses na Riviera Francesa, ocupada em escrever a sua autobiografia, pois que, disse, "o público nunca conheceu a verdadeira Pola Negri senão aquela celebrizada pela popularidade". Referindo-se à abundância de alimentos que encontrara em Portugal, comparada com as restrições em França, a artista se lamentou dizendo que suas ocupações, que a obrigavam a afastar-se dali, impedem-lhe de aproveitar a vantagem de comer bem em Lisboa.

# Noticias do Interior

GOIAMBE: A firma colonizadora Bratac construiu um secadouro de ca-

# POLA NEGRI VAI A HOLLYWOOD

sulos em Lins. Estão encarregados desse serviço os srs. Mita e Sasai. Consta ainda que em Julho sairá publicado um boletim sobre criação de bicho da seda. Informa-se também que o Banco América do Sul financiará os vendedores de casulos, baseado em conhecimento.

# O sr. Nasao Tsuda ofereceu um "cocktail" à imprensa

RIO, 20 — (A. N.) — Realizou-se hoje, às 17 horas, no Jockey Clube Brasileiro, o "cocktail" que o jornalista japonês Masao Tsuda oferece à imprensa e à sociedade carioca, por motivo da sua visita ao Brasil. O sr. Masao Tsuda é dos mais inteligentes e cultos homens da imprensa do Império Japonês, tendo colaborado durante longos anos em Genebra no "Bulletin International de Travail".

# POLA NEGRI VAI A HOLLYWOOD

ferente ao que via. Ainda estava pensando no que escreveria. Uma carta para você. Chegou hoje. Estamos à espera. Sabe que não há matéria para a sua coluna?" disse o moço que o chamara. Shimpei pegou na carta, revirou-se entre as mãos. Olhou bem o sobrescrito e por fim abriu-a, rasgando um dos fados. Tiron e conteúdo e desdobrou. Eram várias folhas escritas numa letra miúda, redonda, bonita, muito regular. Letra de mulher. Começou a ler. Enquanto lia um sorriso ia se esboçando em sua face. Logo o sorriso tornou-se franco. Começou a murmurar: "Hum. Essa é boa. Será possível? Depois ficou ininteligível. Os murmúrios não iam além dos Hum sem significação. Perto, os culros três quasi que não podiam mais conter a curiosidade. Olhavam para as mutações na face de Shimpei, ouviam os seus murmúrios e procuravam imaginar o que poderia ser. Mas a ansiedade que se evidenciava na sua atenção indicava bem a curiosidade que é inimiga da imaginação. Shimpei continuou a ler. As páginas se seguiram sem outro comentário que os seus murmúrios e as suas contrações faciais. Quando acabou olhou em volta. Só então deu conta dos que estavam em redor. Voltando-se para o diretor. "Você se lembra daquela nossa conversa", começou a falar, "de que não havia gente que escrevesse? Pois olha, esta carta é de abafar". Apontou para as folhas na sua mão. "É assim de admirar?" disse o diretor. "De admirar? De cair os queixos. É de Aracatuba, escrita por uma moça. Eu vou ler um trecho". Começou

# POLA NEGRI VAI A HOLLYWOOD

ferente ao que via. Ainda estava pensando no que escreveria. Uma carta para você. Chegou hoje. Estamos à espera. Sabe que não há matéria para a sua coluna?" disse o moço que o chamara. Shimpei pegou na carta, revirou-se entre as mãos. Olhou bem o sobrescrito e por fim abriu-a, rasgando um dos fados. Tiron e conteúdo e desdobrou. Eram várias folhas escritas numa letra miúda, redonda, bonita, muito regular. Letra de mulher. Começou a ler. Enquanto lia um sorriso ia se esboçando em sua face. Logo o sorriso tornou-se franco. Começou a murmurar: "Hum. Essa é boa. Será possível? Depois ficou ininteligível. Os murmúrios não iam além dos Hum sem significação. Perto, os culros três quasi que não podiam mais conter a curiosidade. Olhavam para as mutações na face de Shimpei, ouviam os seus murmúrios e procuravam imaginar o que poderia ser. Mas a ansiedade que se evidenciava na sua atenção indicava bem a curiosidade que é inimiga da imaginação. Shimpei continuou a ler. As páginas se seguiram sem outro comentário que os seus murmúrios e as suas contrações faciais. Quando acabou olhou em volta. Só então deu conta dos que estavam em redor. Voltando-se para o diretor. "Você se lembra daquela nossa conversa", começou a falar, "de que não havia gente que escrevesse? Pois olha, esta carta é de abafar". Apontou para as folhas na sua mão. "É assim de admirar?" disse o diretor. "De admirar? De cair os queixos. É de Aracatuba, escrita por uma moça. Eu vou ler um trecho". Começou

# A exportação de matérias primas minerais no 1.º trimestre de 1941

As matérias primas de origem mineral exportadas pelo Brasil no primeiro trimestre de 1941, somaram 85.572 contos de réis, correspondendo a 6,3 por cento do total da exportação do país. Em comparação com o mesmo período de 1940, registra-se uma diferença a mais no valor de 40.612 contos, ou seja 90,3 por cento.

Entre os minérios assinalam aumentos bastante apreciáveis os de manganês e de ferro. Exportamos de Janeiro a Março do ano corrente 105.790 toneladas (17.882 contos) de manganês, contra 26.821 toneladas (4.141 contos) nos mesmos meses de 1940. O preço médio da tonelada desse minério a bordo foi, este ano, de 169\$033, contra 154\$394 no ano anterior. O minério de ferro, por sua vez, cuja exportação em 1940 (Janeiro a Março) havia sido de 15.139 toneladas (1.076 contos), subiu em 1941 a 42.444 toneladas (3.648 contos) tendo, pois, o seu preço médio passado de 71\$074 a tonelada, em 1940, para 85\$948, em 1941.

Relativamente às pedras preciosas e semi-preciosas, houve um acréscimo sensível quanto aos diamantes. A sua exportação, de Janeiro a Março de 1941, somou 14.292 gramas (28.837 contos), contra 11.811 gramas (22.293 contos) em 1940, tendo

o seu preço médio subido de 1:387\$477 para 2:017\$702 a grama. As águas-marinhas registaram, por seu turno, um crescimento de 97.498 gramas e 1.335 contos, no período em apreço.

A mica, embora tenha caído na exportação quanto ao volume (163 toneladas no primeiro trimestre 1941, contra 173 toneladas no mesmo período de 1940), registra uma diferença em valor de 1.539 contos a mais (4.429 contos em 1941, contra 2.890 contos em 1940), tendo o preço subido de 16:705\$202 em 1940, para 27:171\$778 em 1941.

O mesmo aconteceu com o quartzo ou o cristal de rocha, cuja exportação, tendo caído em volume de 338 para 204 toneladas, aparece com 4.011 contos a mais em 1941, pois o valor total da exportação no corrente ano foi de 9.516 contos, contra 5.505 contos em 1940. O preço médio de tonelada subiu de 16:288\$165, em 1940, para 46:647\$053, em 1941.

É interessante observar que os diamantes e o manganês juntos representaram 54,5 por cento do total da exportação de matérias primas minerais no primeiro trimestre de 1941.

Devemos não esquecer que, entre tais produtos de origem mineral, estão incluídos o ferro gusa e o ferro em barra, lâminas e placas (produtos siderúr-

## PRODUTOS DE ORIGEM MINERAL (Matérias primas)

Exportação Brasileira no 1.º trimestre de 1940-41

MERCADORIAS	UNIDADE	QUANTIDADE		Valor a bordo no Brasil em contos de réis	
		1940	1941	1940	1941
<b>MINÉRIOS:</b>					
De manganês	Tons.	26.821	105.790	4.141	17.882
De ferro	Tons.	15.139	42.444	1.076	3.648
Outros minérios	Tons.	959	946	1.121	851
<b>Pedras preciosas e semi-preciosas:</b>					
Diamantes	Gramas	11.811	14.292	22.293	28.837
Águas-marinhas	Gramas	144.833	242.331	2.928	4.263
Outras pedras	Gramas	333.003	944.614	749	1.055
Cristal de rocha ou quartzo	Tons.	338	204	5.505	9.516
Mica	Tons.	173	163	2.890	4.429
<b>Ativos Siderúrgicos:</b>					
Ferro gusa	Tons.	5.534	8.378	2.516	4.271
Ferro em barras, lâminas e placas	Tons.	—	7.293	—	944
Outras matérias primas de origem mineral	Tons.	1.813	5.115	1.741	1.960
<b>TOTAIS</b>				<b>44.960</b>	<b>65.572</b>

(“Boletim do Conselho Federal do Comércio Exterior”)

# A população do Brasil em 1920 e 1940

RECENSEAMENTO GERAL DE 1920		RECENSEAMENTO GERAL DE 1940	
Unidades Políticas	População recenseada	Circunscrições Censitárias	População (resultados preliminares)
		<b>a) Delegações Regionais:</b>	
Alagoas	978.748	Alagoas	957.621
Amazonas	363.166	Amazonas	449.077
Baía	3.434.465	Baía	3.907.086
Ceará	1.319.223	Ceará	1.994.009
Distrito Federal	1.157.373	Distrito Federal	1.731.567
Espírito Santo	457.328	Espírito Santo	783.425
Goias	517.919	Goias	632.855
Maranhão	874.537	Maranhão	1.246.813
Mato Grosso	246.642	Mato Grosso	427.629
Minas Gerais	5.383.174	Minas Gerais	6.797.219
Pará	983.507	Pará	949.808
Paraíba	961.106	Paraíba	1.424.457
Paraná	685.711	Paraná	1.243.838
Pernambuco	2.154.835	Pernambuco	2.674.683
Piauí	609.000	Piauí	832.250
Rio de Janeiro	1.559.371	Rio de Janeiro	1.851.727
Rio Grande do Norte	537.145	Rio Grande do Norte	774.503
Rio Grande do Sul	2.163.713	Rio Grande do Sul	3.336.632
Santa Catarina	668.743	Santa Catarina	1.182.854
São Paulo	4.592.188	São Paulo	7.230.168
Sergipe	477.064	Sergipe	514.945
Território do Acre	92.379	Território do Acre	81.326
		<b>b) Delegacia Extraordinária (Região da Serra dos Aimorés, objeto de litígio entre os Estados do Espírito Santo e de Minas Gerais):</b>	
			67.103
<b>BRASIL</b>	<b>30.635.005</b>	<b>BRASIL</b>	<b>41.356.605</b>
<b>Censos econômicos (Unidades recenseadas):</b>			
<b>a) Agrícola</b>			
	648.153		1.898.200
<b>b) Industrial</b>			
	13.336		44.859
			179.339
			3.788
			96.043

# Marco censitário no local do descobrimento

Entre as obras que assinalam o local do descobrimento do Brasil, vai figurar um marco, cuja maquete já está sendo feita, comemorativo do 5.º Recenseamento Geral.

O marco conterá a estimativa da população da Terra de Santa Cruz na época do descobrimento e os resultados dos cinco censos nacionais.

A iniciativa é realmente feliz, pois se destina a deixar registrado, no lugar onde o Brasil nasceu, o balanço do capital humano que se multiplicou sob o Cruzeiro do Sul no decorrer de quatro séculos e quatro décadas.

Ali ficarão testemunhados, apenas com algarismos, sem palavras supérfluas, o êxito da colonização portuguesa e a força da civilização que criamos caldeando raças, dominando os sertões, descobrindo riquezas.

Localizado exatamente o ponto onde aportou a nau cabralina, nada poderia sintetizar melhor, nesse lugar histórico, o desenvolvimento da terra “chá e mui fermosa” de Caminha do que os assentos a serem inscritos no marco do Recenseamento: seis datas, seis cifras, mencionando o ano do descobrimento, o de 1872, o último do século XIX, o de 1920 e o de 1940 e o quantitativo demográfico em cada uma dessas fases.

E se alguma coisa há a lamentar é que, com quasi 120 anos de vida independente, tenhamos apenas cinco resultados censitários a inscrever, justificando-se assim o voto de que o último

censo seja o primeiro de uma série para atestar a pontualidade e a segurança da contabilidade decenal perfeita, característica do país.

**13 aeroplanos importados no primeiro trimestre de 1941 pelo Brasil**

O Brasil de Janeiro a Março de 1941 importou 13 aeroplanos no valor de 2.953 contos de réis. No mesmo período do ano passado havia importado 31 no valor de 8.319 contos. Aumentou, entretanto, a importação de acessórios para aeroplanos de 18 toneladas (3.777 contos) nos três primeiros meses de 1940 para 23 toneladas (4.743 contos) nos mesmos meses de 1941.

# Organização das Estatísticas

Azevedo Amaral

A passagem do quinto aniversário da instalação do Instituto Brasileiro de Geografia e Estatística acaba de ser comemorada, tendo a ocasião servido para homenagens, com que foram devidamente focalizados os serviços prestados pelo Presidente Getúlio Vargas, à obra da organização das estatísticas em nosso país. Um dos empreendimentos mais importantes que se inscreveram no círculo das iniciativas, com que o Governo durante o último decênio realizou, em tantos sentidos, reformas, que alteraram a administração pública e os serviços mais essenciais ao progresso do país, foi sem dúvida o trabalho de sistemático desenvolvimento no setor das estatísticas.

O Brasil, embora tivesse sido

Tratando do Brasil, aquelas publicações, de autoridade mundialmente reconhecida aludiam às cifras das nossas estatísticas oficiais, chamando a atenção dos leitores para a pouca confiança que mereciam. Em congressos internacionais também alusões depreciativas das nossas estatísticas traziam-nos a noção dolorosa de quanto andávamos desorientados nesta matéria. Entretanto, o aspecto que acabo de assinalar era o menos grave da situação decorrente da falta de dados sobre a nossa vida econômica e social.

O maior mal que daí redundava era a impossibilidade de serem estudados os problemas nacionais, com bases suficientemente definidas, para permitir que se traçassem as linhas de qualquer ação política ou administrativa sistematicamente orientada. Em um país sem estatísticas, ou talvez pior ainda, onde as estatísticas em vez de esclarecer e orientar com segurança, serviam para difundir idéias erradas e informações inexactas acerca dos assuntos mais importantes, era evidentemente impossível legislar e administrar conscienciosamente. O empirismo que caracterizava outrora as nossas atividades governamentais decorria, por certo e em grande parte, da situação caótica reinante no setor da estatística.

Por outro lado, o empreendimento particular também se via cercado pela impossibilidade de apoiar os seus planos em dados seguros, como os que em todos os outros países civilizados estavam ao alcance dos homens de iniciativa e de trabalho. A economia nacional era assim consideravelmente prejudicada pela deficiência no tocante a um dos serviços mais imprescindíveis nas condições de dinamismo de uma nação moderna.

Nesse terreno o presidente Getúlio Vargas levou por diante uma das partes mais interessantes do seu programa de reforma e renovação. Ao tempo da revolução de 1930, a questão da importância da estatística e da necessidade de organizar bons serviços desse gênero havia sido focalizada, graças à iniciativa de um grupo de técnicos, que desde o Recenseamento de 1920 vinha procurando formar

um movimento de opinião, no sentido de promover alguma coisa de novo em relação às estatísticas. Mas como sempre acontecia no ambiente do antigo regime, os esforços dos especialistas não conseguiram ir além do platonismo das aspirações calorosamente manifestadas e dos protestos que deixavam indiferentes os políticos absorvidos pela democracia eleitoral.

Por meio de uma série de medidas, que foram sucessivamente despertando interesse pela estatística e formando em vários departamentos administrativos núcleos de técnicos consagrados com entusiasmo a esse assunto, o Presidente preparou o terreno para a segunda e decisiva etapa dessa obra, com a fundação do Instituto Brasileiro de Geografia e Estatística. A instalação deste no próprio Palácio da Presidência da República foi um sinal do interesse com que o Chefe da Nação acompanhava a marcha do novo empreendimento. E a escolha de um homem do valor do sr. José Carlos de Macedo Soares para dirigir o novo órgão administrativo, foi uma garantia do sucesso da obra que se ia realizar. Cercado por um grupo de técnicos de grande competência, o sr. Macedo Soares tornou-se o centro de animação e de orientação do aparelho que devia executar o magnífico programa do Presidente da República.

Passados cinco anos, o Instituto já tem um ativo de serviços que basta para dar a medida da sua capacidade realizada e permitir apreciar-se o vulto das possibilidades da sua ação futura. Hoje o Brasil é um país cujos serviços de estatística se recomendam aos técnicos estrangeiros pela sua perfeição e scrupulosa exatidão. Em conferências internacionais, os novos métodos já foram preconizados como modelos dignos de imitação. E, o que é ainda mais importante, a ação educativa do Instituto Brasileiro de Geografia e Estatística vai desenvolvendo em todos os ramos da educação pública e em um número crescente de setores da vida econômica do país o gosto inteligente pelos conhecimentos da estatística, acompanhado de uma compreensão lucida da sua inextinguível importância.

50 NISEI

a procurar por entre as páginas. “Está aqui. Ouçam só isso!”

“Os nisei são formidáveis: primeiro arrumam um movimento daqueles, dizendo que o lugar das nisei é perto do fogo, que mulher não precisa ler e muito menos escrever. Depois, depois de terem moralmente recuado o “Mulheril” para a cozinha, convencendo-as de que elas não devem ter outra preocupação, arrumam uma galeria e lá as expõem, às vezes, em termos nada honrosos. Enfim, como as guerras de hoje se caracterizam por movimentos combinados... Era o caso de também nós combinarmos os movimentos das baterias de cozinha, e depois de usá-las na confecção de um bom almoço, arrumarmos as vasilhas com toda a força na cabeça delas para mostrá-lhes que quando menos, além de cozinheira, a mulher pode ser pugilista!”

E dobrando novamente as folhas: “Que tal acham?”

“Não há dúvida”, disse o diretor, “e principalmente vindo donde vem. De Araçatuba. Estou quasi acreditando que não foi ela. Depois do que temos tentado e visto, é pouco fora do comum”.

“E por que não?” interpôs os dois moços revisores. “Não é possível que não houvesse. Há de aparecer aos poucos. Com tanta gente não é possível que não houvesse um. Já faz mais de trinta anos que os primeiros imigrantes chegaram. E o número dos que tem curso ginasial é enorme. Inacreditável seria o contrário”.

“Seja o que for. A prova palpável está aqui”, disse Shimpel apontando novamente para as folhas em sua mão. “Esperemos que isso continue”.

“Continuará?” A interrogação era do diretor. “Atu-

**DIRETO FIXO**

DIREITA, 250-254  
QUITANDA, 157